

月刊

書字文化

～日本書字文化協会機関紙～



令和4年(2022年)11月号

編集長・渡邊啓子



目次

- ◇ご挨拶 会長・大平恵理 2
- ◇第1回書検案内 3
- ◇専修学院展示会 4
- ◇第11回総合大会 加藤東陽・書文協中央審査委員長講評 . . 5
- ◇第11回総合大会優秀賞受賞コメント集 7

一般社団法人日本書字文化協会(書文協)

本部 〒164-0001 東京都中野区中野2-11-6 丸由ビル3階
電話03-6304-8212 / FAX03-6304-8213
E-mail info@syobunkyo.org ホームページ <http://www.syobunkyo.org>
附属 書写書道専修学院
本部中野校 本部に同
多摩支部校 (東京都羽村市)、川崎校 (神奈川県川崎市)

ご挨拶

一般社団法人・日本書字文化協会
代表理事・会長 大平 恵理

専修学院展示会を開催します



12月10(土)、11(日)の二日間、東京都中野区の区立もみじ山文化センター(なかのZERO)美術ギャラリー(西館)で、書文協附属「書写書道専修学院」の展示会を開催いたします。同学院中野・多摩・川崎校合同で行うもので、来場可能な方はぜひお運びください。無料です。

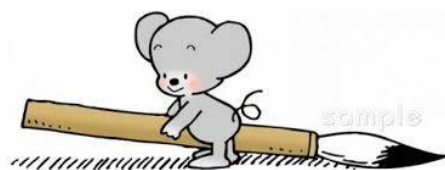
コロナ禍が続いています。閉じられた生活を強いられる中で、もう長いこと作品展示会を開けませんでした。まだ安心しきれない状況ではありませんが、防疫に万全を期して開催に踏み切ることと致しました。後述しますが、次は全国レベルの展示・交流会を来春に企画したいと思っています。

専修学院1年間のスケジュールは、毎月3回の通常授業、夏・冬の特別講習会があり、硬筆・毛筆検定、指導者ライセンス、全国コンクールの取組と盛りだくさんです。こうした学びを形にする一つが作品展です。硬筆、毛筆それぞれに年に1回、もしくは2,3年に1回はアルバムや掛け軸を作り、記録に残すことを推奨しています。

過去の作品を見ることは写真と同様、それ以上に当時の自分がそこにあるかのようです。また、作品展は他の方、先輩や後輩の作品を鑑賞でき、自分の作品も客観的に観られる最も良い機会です。

こうしたことから、アルバム、掛け軸制作代などを生徒さん・保護者のご家庭に負担をお願いすることといたしました。なにとぞご理解お願い申し上げます。もう一つ、書文協が形に残すものとして取り組んでいるのが、学びの記録を記した成績証明書の発行です。作品展の記念に無償で学院生に発行する予定です。

全国規模の展示・交流会も長く開けていません。来年4月1(土)、2(日)の頃、開催できないか検討しています。同時に、当会教学顧問である在日中国人書家、劉洪友氏による「中国古典講習会」を開催、同時に総会も開きたいと夢を広げています。改めて発表させていただきますのでよろしくお願い致します。



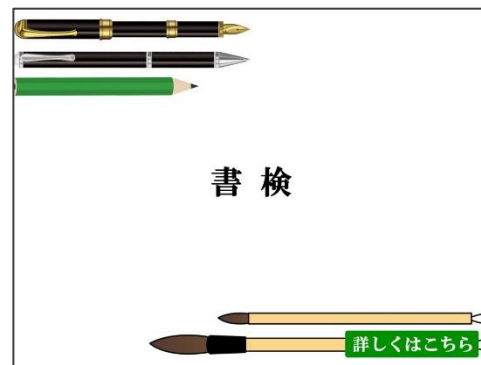
第1回書検を来年6月に実施

来年早々に参加募集

書検（全日本書字検定試験）の第1回を、令和5年6月に行います。自分に書写書道の知識や技術が身に付いているかを調べるものです。字の上手、下手で段級を付与するものではありません。書道を生涯学習にし、文字文化を発展させるために行います。皆さん、ぜひ参加してください。年が明けたら、参加募集を始めたいと思います。主催：一般社団法人日本書字文化協会、後援：公益財団法人文字・活字文化推進機構。

実施要項は書文協ホームページ <https://syobunkyo.org> でご覧ください。

「書検」という題字が入った、下図のバナーから見られます。



学年相当の20段階に分けてテスト

テストは、幼稚園児から小学・中学・高校・大学・一般まで20段階に分けて行います。その学年までに体得して欲しい書写書道の基礎知識や実技について、硬筆、毛筆の両方について検定するものです。例えば、書く時の「止め、はね、払い」についてどこまで知っているか、実際に書けるか、などを調べるものです。検定結果は合否で示します。書写書道に熱心に取り組む園・学校には是非とも参加していただきたいと期待します。毎年6月実施の予定で、前学年の学びの振り返りとなります。不合格の人には追試験の機会を設けます。

書道を生涯学習として学び続けていただくには、幼稚園教育要領、学習指導要領に定められた基礎基本を身に付けることが大切です。書検は、正しい日本語の継承・発展を目標にする書文協が長年にわたって準備してきました。コロナ禍で実施が数年延びましたが、実施の見通しで準備を進めています。書文協ホームページ（上記「書検」のバナー）に順次、情報を加えていきますのでご覧ください。まず実施要項が掲載されました。ホームページはスマホからも楽に読める構造になっています。

YouTube「書検」開設へ

書検についての説明、問い合わせに応じるユーチューブを、今年末か来年の年初め早々に開設します。募集の開始等もそこから発信して参ります。楽しみにお待ちしております。

それまでの間も、ご質問にはお答えして参ります。どんな些細なことでも結構ですので、書文協本部にお問い合わせください。電話番号・FAX番号、Eメールアドレスはこの機関紙の1ページ下部に記載しています。また、ホームページにも問合せコーナーがありますのでご利用ください。広報担当の谷口に直接お電話いただいても結構です。谷口携帯は090-1252-6137です。

 **チャンネル登録**



作品展示会を開催します

日本書字文化協会附属「書写書道専修学院」生徒の作品展示会を12月10（土）、11（日）に、なかのZEROで専修学院の中野・多摩・川崎校3校合同で開催します。時節柄、こうした機会が長くないままに過ぎました。防疫に完全を期し開催します。学院生、ご家族の方、お知り合いもお誘い合せて是非お越しください。無料です。学院が初めての方には、特典ありの書文協入会資料も用意致します。

硬筆作品は記念アルバムに、毛筆は表装し展示されます。中野校の通常授業が展示会場にて公開授業として10日午後、11日午前・午後に開催されます。ご覧ください。

記

時 間	10:00-18:00 (11日は17:00まで)
場 所	中野区立もみじ山文化センター (なかのZERO) 西館美術ギャラリー1
住 所	中野区中野 2-9-7 電話 03-5340-5000JR・
アクセス	JR・地下鉄中野駅南口を出て左折、線路沿いに新宿方面に向かう方向で徒歩約7分。

第11回総合大会

「線を引く自然さが大事」

加藤東陽・書文協中央審査委員長講評

第11回全国書写書道総合大会の応募数は、ひらがな・かきかたコンクール 2,130点、全国学生書写書道展・席書の部 316点、公募の部 931点、全国硬筆コンクール 3,519点、合計6,896点で、前回より5%の微増でした。審査会は9月28日午後、中野区内で開かれました。

以下、加藤審査委員長の講評を掲載します。

<硬筆>



まず硬筆についてです。幼児～小学4年生はマスに合わせて1字1字の書き方、小学5年生～中学生は罫線の用紙で1字1字の書き方から更に文字の大きさや中心、そして高校生以上は紙面の枠内に作品としての魅力をまとめ上げた作品が出揃いました。

学習過程では、方法の一つに書き順と文字の形など自分のめあてをもち、指や硬筆で「手本（学習文字）を写す」というやり方があります。特に幼児、低学年には適した学習方法です。一方、写すことに終始してしまうと、書き上げた文字がとても窮屈に見え、また、重ねないと書けないというようなことを招いてしまいます。高学年へと学習が進んだ時に応用力が弱いことにもつながるので注意しましょう。また、線を引く自然さをもった作品を高く評価しました。手本（学習文字）を効果的に活用していただくよう、指導者、保護者の方におかれては注意をはらっていただけると幸いです。

小学校高学年から中学生では、マスから放れて行になるため、文字の中心に気をつけて1行1行に収めるという難しい段階に上がります。用紙に対する文字の大きさと中心の取り方が課題となります。漢字を大きめに書く中で、小さめに書くひらがなや画数の少ない漢字が左右に寄り易くなりますが、上位に上がってきた作品はその点が良く書けていました。また、複数の行が一貫して調子がそろっていることも良かった点です。

高校生以上の作品で残念だったのが、抑揚がある線質で目を引いた作品が筆ペンで書かれたのではないかと筆記具に疑義が生じたことです。筆記具を選ぶときは硬筆の規定の範囲を超えないものを選ぶようにしましょう。また、一般の方には行書や草書にも積極的に挑戦していただくことを奨励いたします。

<毛筆>

毛筆については、小学校の段階では、硬筆との関連が大切です。特に点画の接し方や終筆（トメ・ハネ・払い）は、硬筆ではかなり細かいことですが、毛筆でははっきり分かります。例えば「光」の第1画に第3画の終筆が太く接してしまうと横画のように見えてしまうなどが挙げられます。気を付けましょう。

中学生以上大学生は行書や草書で実画と虚画の書き方に少し気を払うと良いように感じました。実画とは実際にある画、虚画とは行書や草書の点画の連続で生まれる実際にはない線（空中での筆の動き）のことですが、連続線の多い行書や草書では虚画が実画のように取られないことも大切です。この実画と虚画の表現は硬筆にも通じることです。

発展した学びを大切に

本コンクール名称にもある書写書道は、文字を学び、文字から学ぶ、両方を含めた文字文化・書字文化として素晴らしいものです。本コンクールを通じて、幼児から一般まで滞ることなくスムーズに発展した学びを大切に取り組んでいってください。



第 11 回総合大会

上位入賞者コメント集

第 11 回全国書写書道総合大会で上位賞の 18 人に受賞のコメントを書いていただきました。スペースの都合上、編集部で削除など編集の手を入れました。指導者や家族への感謝の気持ちは大事なのですが削りました。ほとんどのコメントのタイトルは編集部でつけました。また、幼児では保護者や指導者の聞き書きが含まれます。文責は編集部にあります。ホームページでは全文が掲載されます。

【ひらがな・かきかたコンクール】

<文部科学大臣賞>

千葉県・船橋市立薬円台南小学校 2 年

山口 あい

「あ」に苦労した

お母さんからこの知らせを聞いたときは、もうとてもビックリしてとび上がってしまいました。

今回のかだいは「さかあがりをれんしゅうする。」でしたが、「あ」をなかなか上手に書けなくて大へんでした。自分の名前にもつかわれている文字なので、一生けんめいれんしゅうしました。

これからは、ふだんから字をていねいに書きたいと思います。

<文部科学大臣賞>

埼玉県・足立みどり幼稚園年長

水谷 梨乃

滑り台を滑るように払って

幼稚園から帰る車の中で、お母さんから「1 番になったよ」と教えてもらいました。とても嬉しくて、お母さんと一緒に「やったあー」と喜びました。

教室では、たくさん練習をしました。「つ」と「し」のはらいと、「し」の縦線が難しかったです。先生にたくさん教えてもらって、はらいはシューっと滑り台を滑るように、縦線は真っ直ぐ丁寧に書きました。

名前の「の」の字は上に上がるところがとても難しかったです。上手に書けた時は、自分でもびっくりしました。



<大 賞>



埼玉県・本庄市立本庄東小学校 1年
牧野 晃太郎

少しだけ自信がついた

はじめは、かだいににが手な字が入っていてうまくかくことができませんでしたが、なんどもれんしゅうしてお手本にすこしずつちかづいた字をかけるようになってきたときは、すごくうれしかったのをおぼえています。

小学生になって学校でもこうひつがあるのががんばっていますが、今回このような大きなしょうをいただくことができ、すこしだけじしんがつかえました。

<中央審査委員会賞>

埼玉県・さいたま市立指扇北小学校 3年
鈴木 富美

一番の賞を目指すよ

前回と同じ賞を二年連続で受賞できたし、それが上の方の賞なのでうれしかったです。でも次は一番上の賞をめざしていきたいです。

わたしは、かきかたをようち園の年中の時から習っています。何回かやめようかなという気持ちもありましたが、年長の時にコンクールで書いた字がとてもうまく書けたので、そこからやる気が入って今の三年生まで習っています。

よゆうで一番いい賞がとれるよう、習い事を続けていきたいです。



【全国学生書写書道展】

<文部科学大臣賞>

東京都・青梅市立第二中学校 2年
関口 美夢

先輩の姿勢に学ぶ

「これは行かなきゃ!」。先輩の存在に特訓参加を決めた。夏休みだからこそ宿題、合唱コンのピアノ伴奏練習、部活、塾、、、1日1日の予定をどう調整するか。体力的にも限界、だけど先輩達に会いたい!参加する先輩達の名前を聞き「頑張らないと!」と迷いがなくなり、一瞬で心は決まった。

地方の大学に進学した先輩は、夜行バスで帰りそのまま来て、次の日も時間ギリギリまで書いて、そのままバスで帰っていきました。遠方からくる先輩は、わずか数時間のために近隣のホテルに泊まって取り組んでいました。

高校3年の受験生が学校後に片道数時間かけて来ていたり、、、先輩達が見せてくれる背中を私も見せられるようになりたいです。それがこの賞に恥じない私の取り組みだと思っています。

<文部科学大臣賞>

兵庫県・加西市立富田小学校 4年
荒木 奏志

海はすきだけど書くのはしんどい

この展覧会の4年生の課題を見た時、「これは無理だ」と思いました。でも大きな楯とかがほしかったのでがんばるしかありませんでした。ぼくは、ほかの子よりたくさん練習しないとうまく書けないので、夏休みはほぼ毎日練習しました。

とくに「海」が難しくてたくさん練習しました。清書でも「海」だけにどれだけ紙を使ったか…お父さんとつりに「海へ行く」のは楽しいけど、書くのはしんどかったです。一生けんめいにやったことがすごい賞になって返ってきたのでとてもうれしいです。

<大 賞>

東京都・中野区立桃花小学校 6年
本橋 由香里

諦めない心の大切さ学んだ

皆の作品のレベルの高さに、小学校最後の夏の大会で良い結果を出せるかどうか、という不安でいっぱいになりました。

大会に向けた夏期講習の時、私は、「他の人と比べていたら良い作品は書けない」と感じ、不安を吹き飛ばして練習をし、大会にのぞみました。

本番では緊張したため、1枚目で横画の長さを間違えるという致命的なミスをしてしまいました。それでも、2枚目に今までの練習の成果を力の限り出し尽くす事ができました。

私はこの大会を通して、諦めない心が大切だと学びました。この学びを冬の大会と学校の書初め大会に生かしていきたいです。

<大 賞>

明誠学院高等学校 1年
栗原 里歩

余白の魅力に日々格闘

高校生になり、初めて書道と本格的に向き合うこととなったわけですが、習字とは違った表現の幅に戸惑いつつも、任せられた余白の魅力に魅了され、日々格闘しています。

入学後より始めた香紙切を基調として、今回の作品を書き上げました。創作するにあたり、香紙切の特徴である右回転を多用し、繊細かつしっかり芯の通った線質が引き立つように、余白を大切に書きました。難しかったですが実りある学びをさせていただいたように思います。

今は純粋に驚きと喜びでいっぱいですが、この度の受賞を糧により一層大好きな書道に打ち込んでいきたいです。

<中央審査委員会賞>

東京都・日本社会事業大学3年
大平 麗雅

努力は身を結ぶと実感

大学に入り環境が変わり、時間がなかなか取れない中、少しの時間でも教えてもらいました。少しずつでも時間を取ることで努力は身を結ぶと実感することができました。

私は幼い頃から親の影響で書道を続けてきました。小学校、中学校、高校、大学と続けてきましたが、学業との両立が難しくうまく吸収できず苦戦する時期もありました。諦めないで続けることで結果は出すことができると学びました。

これからも学業などと両立し書に励みたいです。



【硬筆コンクール】

<文部科学大臣賞>

三重県・大矢知興譲小学校6年
宮澤 怜奈

自信につながる賞

私が硬筆を始めたきっかけは当時小学生だったお兄ちゃんの付き添いでした。習っていくうちにもっと字が上手になりたいという気持ちが強くなって一生懸命練習してきました。今は妹と一緒に教室に通っています。

私は学校の硬筆展で県まで行くことを目標に頑張っていました。いけなかったのも、とても悔しい気持ちがありました。

しかし、今回このような素晴らしい賞をいただいたのでこれからの自信に繋げることが出来ます。

<文部科学大臣賞>

神奈川県・湘南学園高等学校1年
松岡 由女

今回は学校行事や定期試験と時期が重なり、限られた時間の中で作品制作をしました。何度もお手本と自分の字を見比べながら、少しずつ自分の癖を修正し、線のひとつひとつのバランスを整え、なんとか自分の中で納得のいく作品に仕上げることができました。しかし、作品に手応えは全くなく、賞をいただけるとは正直思っていませんでした。

私は字を書くことが大好きですが、その中でも特に好きなのが硬筆です、練習すればするほど上達しますし、実生活で文字を書くときに字が綺麗だと、日々の書き取りがとても楽しく感じられます。

<大 賞>

神奈川県・森村学園中等部2年
長谷川 さら

書写書道を通じて伝えたい日本の美しさ

この度は大賞という素晴らしい賞をいただきありがとうございました。私は、小学校1年生からこのコンクールが今回で15回目となりました。そして、15回続けて全て特別賞をいただけたことをとてもうれしく思います。

私は、心を落ち着け、集中して字を書くこと、上手く書けた時の気分の良さが実感できる硬筆や書道が大好きです。私はドッグスポーツの国際大会に参加することがあり、たくさんの国の友達がいます。日本の文化である書写書道を通じて日本の美しさを世界中の友達に伝えたいと思います。

これからもより良い作品が書けるように楽しみながら頑張ります

<大 賞>

神奈川県・森村学園初等部4年
高津 康成

もっと上手に！

「高津君！硬筆コンクール、大賞に選ばれたんだって！」担任の先生からお知らせを聞いた時、ぼくはとってもうれしくて、心の中でガッツポーズをしました。

ぼくがコンクールで気をつけたことは3つあります。1つ目は、お手本をよく見て、書き始めから終わりまででいねいに書くことです。2つ目は、えんぴつを強く持たずに、はらいが止まらないように書くことです。3つ目は、たての線が曲がらないように書くことです。清書の時とてもきんちょうしたけれど、練習の時よりも上手に書けてうれしかったです。

<中央審査委員会賞>

大分県・日出町立豊岡小学校3年
荘田 一斗

がんばってよかった

先生から電話でこの賞に入ったと聞いた時、はじめは信じられなくて、思わずさけんでしまいました。とてもすごい賞だと聞いて、うれしさがぼく発しました。家族みんなも、とてもよろこんで「おめでとう」と言ってくれました。それで、ぼくもさらにうれしくなりました。

「去年よりいい賞をとるぞ」と決めて、夏休みは、たくさん練習しました。がんばって本当によかったです。



【総合賞】

<文部科学大臣賞>

東京都・駒場東邦高等学校 3年

葉山 弘一

貫徹

私は書写書道を「字が汚かったから」という理由で、小3の頃に始めましたが、それから10年余り、節目節目の忙しさや学校行事などで途切れてしまうこともありながらも、教室に通い続けて今日に至ります。

今夏は受験の天王山とも言える高校三年生の夏でしたが、10年という人生の半分以上関わり続けた書写書道の、特に中高の6年で積み上げてきたものの集大成を、「この高校三年生という節目にあらわしたい」という思いと「最後までやり切りたい」という気持ちから、必死で時間を見つけ、できる限りの書き込みをして、この作品を仕上げました。そしてその気持ちはこの一報を受け、「やりきった」という気持ちに変えることができました。

<書字文化大賞>

愛知県・岡崎市立矢作西小学校 6年

石丸 芽依

自分に自信を持つことの大切さ

先生から結果を聞いた時、とてもおどろきました。自分がこんな賞をとれると思っていなかったので、「夢」か「現実」かわからなくなりました。

練習している時、思うように作品が書けなかったり、とても上手な先輩がいて、自分に自信が持てませんでした。でも、字を書くことが楽しいことを思い出し、必死に努力した結果だと思えます。

まだまだこれからなので、もっともっと「書」を磨いていきます。

<書字文化大賞>

埼玉県・大東文化大学 2年

大平 知雅

葛藤と納得

私は、何事においても納得できないと気持ちが乗らなくて葛藤してしまいましたが、最近では自分の作品を見る目も変わったように思います。

今回、席書大会では淡墨で仮名を書きました。これまでの私ならきれいに書けた方を選んだと思います。でも、失敗と思って気持ちも揺らいだけれど、墨のかすれなど変化がある作品の方が気に入って、それを選びました。硬筆も全体を収めることに集中しました。葛藤しながら最後までまとめ上げた作品、これでいいと自分で決めて出品しました。

葛藤と納得を繰り返しながらですが、これからも自分の作品の良さを見つけて書いていきたいと思っています。